

日中ダム・大桧沢1号橋の見学記

編集委員会

昨年(1988年)の10月28日から10月29日にかけて、福島県熱塩加納村に建設中の日中ダムと、その湖面を横断する大桧沢1号橋(仮称)を、プレストレストコンクリート技術協会編集委員会のメンバーで見学させて頂いた。会津若松に近い、喜多方市から北へ車で約20分のところに位置している。

大桧沢1号橋は、林道の保証工事として施工されているスパン101mの2径間連続PC斜張橋である。斜材

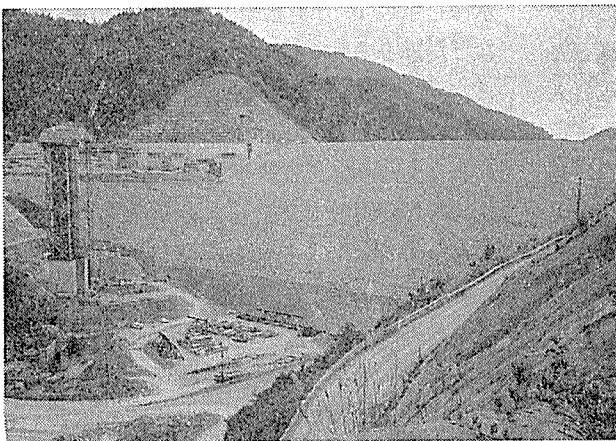


写真-1 日中ダム

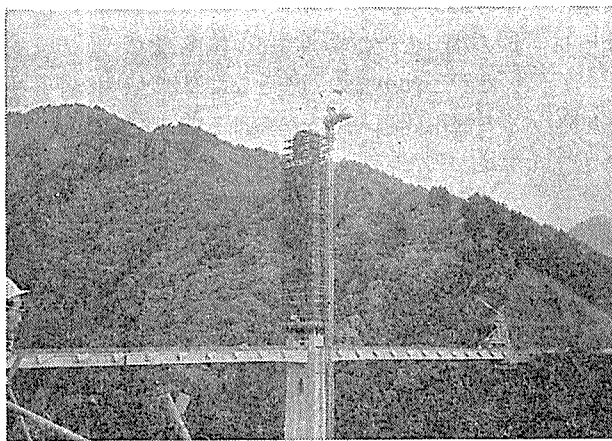


写真-2 大桧沢1号橋

は、2面吊セミハーブタイプで、VSL斜ケーブルシステムが使用されている。主桁は、有効幅員4m、桁高2mの1室箱桁で、新型のトラベラーを利用したSLT(Suspended Long Traveller)工法により張出し架設された。SLT工法のトラベラーは、先端が斜ケーブルで吊られた状態でコンクリートが打設されるため、一度のコンクリート打設ブロック長が7m(斜材間隔)の施工を可能にし、工期短縮に寄与しているとのことであった。この橋の主塔全高は、133mと国内最大級のもので、周囲の木々の紅葉に映え、優美な姿を見せていたが、81mの高橋脚部の大部分が、ダム稼働後、水面下に没してしまうのは残念なことである。

日中ダムは大桧沢1号橋の近く、下流側に位置し、着工以来約10年経過し、現在、90%の完工率で建設中である。当ダムは、喜多方市、塩川町などの4600haに及ぶ田への安定した農地用水の供給、315t/秒の流量の洪水調節および周辺地域に17400t/日の都市用水の供給と、小水力発電を目的とした、塔高101m、堤頂長423m、貯水量2460万m³の規模を持つ中央しゃ水型ロックフィルダムである。本堤体積約500万m³の多くを占めるロック部は、近くの原石山で採取された石塊が積み上げられる。この日、大きな石の間を小さな石で、ひとつずつ人の手により丹念に詰めているところを見、ダム本体の大きさとは不釣り合いな細かい作業であると意外に思ったが、勇壮な景観を持つロックフィルダムの建設になくはならない重要なことであると痛感した。

有意義で貴重な体験をした現場見学以外の懇親会でも、元祖喜多方ラーメンに舌づつみを打ったこと、熱塩温泉で熱い湯の心地良さと山菜や地酒の旨さを味わったことなど、数多くの楽しい思い出を得させて頂いた。

無事完工させることを願うとともに、現場見学のみならず、いろいろとお世話頂いた大成建設株式会社、鹿島建設株式会社の皆様方に厚く御礼申し上げます。

【記：石橋悦治(住友電気工業(株))】